

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500769		
法人名	社会福祉法人 フェニックス		
事業所名	グループホーム サニーテラス 1階		
所在地	岐阜県各務原市鵜沼各務原町9-204-3		
自己評価作成日	令和4年1月1日	評価結果市町村受理日	令和4年8月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JikvsvCd=2170500769-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和4年1月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で例年のように外出ができず、おなじみの手作りおやつや、食材を使つての食事。それは当たり前のグループホームの形であり、コロナ禍による為に改めて実施出来ています。しかし、限界はあり、利用者様の思いはやはり、家族に逢いたい、家に一度帰りたいたいとの思いが伝わってきます。その為に面会の形には限界がありますが、出来るだけ可能なかぎりご家族様に面会をお願いして来ました。その為に逆に帰宅願望や、気分の安定が測れない利用者様の対応に困る場面も実際にはありませんでした。しかし、逢わないよりは？良いのではとの想いでした。時間が経つと忘れるため、会話の中には何度もコロナの存在の話を入れて理解を持っていただけるように頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームがある敷地内には、地域交流スペースや芝生があり、今年度は、コロナ禍の影響で、制限的にならざるを得ない状況にあるが、例年、託児所の子もたちとの交流、地域のサロン活動やカフェ開催等を通じて地域の住民との交流を深めている。ホームはその名の通りの日の当たるテラスがあり、採光に優れ、広々とした造りとなっている。母体法人は、医療機関を中心とした特定医療法人・社会福祉法人のグループ法人であり、医療・福祉施設を総合的に展開している。したがって、緊密な医療連携体制の構築が特色であり、利用者・家族の安心につながっている。ホームでは、介護する・される関係を超えて、グループホームの原点ともいえる生活を共にする関係性を大切に、コロナ禍の中でも工夫し、利用者の潜在的な力を引き出すべく、QOLの向上に向けた支援に取り組んでいる。例えば、「食」への取り組みとしては、昔懐かしい食材を活用した食事やおやつ等を利用者も一緒に手作りに動かし、利用者それぞれが作り出す「味」を皆で楽しんでいただいている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の実施を行い、毎朝の朝礼に呼称をしながら、新たな心意気を胸に仕事に入れるように申し送りなどの共有を図っている。	法人のクレド「フェニックスウェイ」の一つであるミッション「私たちの理念」を掲げ、名札に入れて常に携帯するとともに、朝礼等で読み上げる等して、職員間で理念を共有し、その実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年同様にコロナ感染予防に向けての交流の自粛を行っている。	今年度も昨年度に引き続き、コロナ禍で自粛の状況にあるが、例年、ホームがある建物内に併設されている地域交流スペースでカフェやサロン活動での交流や隣接託児所の子どもたちとの交流、夏祭りや秋まつり等の各種行事の実施を通じた地域交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接している施設の秋祭りに参加し地域の方々と交流している。又、地域運営推進会議を利用し、地域の方々には認知症に対する理解を深めて頂き、ご利用者の生活状況などを伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防の為、今年度も運営推進会議を開催していない。書面上のみとなっている。	今年度も昨年度に引き続き、コロナ禍の影響で開催を中止せざるを得ない状況にあるが、書面開催を行い、詳しく、また写真つきにする等、見やすくした会議報告を行っている。例年は、定期的に会議を開催し、多くの参加者を得ている。また、委員の意見はホームの運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは運営推進会議を通じて、地域との関わりや入居者様の状況、リスクマネジメント、ヒヤリ・ハット報告等細かく報告し意見を頂いている	市担当課とは例年、ホームの運営状況等の報告や助言を得る等の情報交換を通じて協力関係を構築しているが、今年度も、昨年度に引き続き、コロナ禍の只中にあり、新型コロナウイルス感染症対策に関して情報共有を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度も、身体拘束の対象者はいないがカンファレンスで話し合い、人感センサーの設置、ベッド柵や歩行器に鈴をつける等個々に合った対応策をしている。また、転倒のリスクが高い利用者様には家族からの同意をもらいカメラの導入を行っている。	毎月のカンファレンスの事例検討を通じて、身体拘束をしないケアについて話し合っている。例えば、転倒の危険性が高い利用者についてリスクアセスメントを行い、利用者一人ひとりに合わせて、予防的観点からの安全確保に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	尊厳について理解を深め、周知できるよう常にカンファレンスで知識を得て防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンス等で学ぶ機会を設けており、必要と思われる方には支援できる体制にある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに、ご本人やご家族の希望を伺いながら十分な説明を行い、理解して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に設置しているが、中に入れない為何かあれば口頭で面会時や、電話にて御意見、ご要望などを頂いている。そのことをカンファレンスで話し合い反映させている	昨年度に引き続き、コロナ禍の只中であるが、利用者とは日常的生活支援の場面で意見を聞く等しており、家族とは、来訪の際や、電話やメール、SNS等を活用して意見を聞いている。いただいた意見はホームの運営に反映させるとともに、支援の質の向上につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の運営会議が毎月定期的で開催されていたが、現在は支援会議のみリモートで行われている。代表者をはじめ各事業所の職員が出席し、意見・相談・提案をする場となっており、運営に反映させている	コロナ禍で法人の会議の開催が困難であるが、代替的にリモート会議を開き、意見を聞いている。また、管理者は現場に身を置き、日々の業務の中で職員の意見の汲み上げを行っている。職員は介護の社会的基盤維持における必要不可欠な専門職集団であると考えており、質の高い支援の提供のためにも働きやすい職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的上司と面談する機会が設けられており、個々の自己評価をもとに話し合っている。又、非常勤職員にも毎月評価シートがある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内キャリアアップ制度に基づき、研修会などに参加しスキルアップを図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの交流や、グループホーム協議会への加盟、研修会への参加により質の向上を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを収集し、それをもとに要望等に耳を傾け環境に馴染み、安心できる空間とお互いの信頼関係を築くことが出来るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の情報をもとに、ご家族の思いや不安に思っている事などを伺い、安心して頂ける支援が出来るよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集した内容から必要とされる支援を見極めている。又、他職種との連携も図っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活における家事作業などを一緒に行い、その方の役割ややりがいに繋げていけるよう、共に過ごす時間を多く持つようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて報告・相談をし、入居者様とご家族との関係を支えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会や遠方の親戚への電話・手紙など、積極的に受け入れている	今年度も引き続き、コロナ禍の影響で、外出や面会等について制限的にならざるを得ない状況にあるが、その中でも、友人の面会や遠方の親戚への電話・手紙のやり取り等を通して関係継続に努めている。例年は、家族との食事や買い物での外出や地域交流広場での交流等を通して馴染みの方々との関係を深めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士楽しく過ごして頂けるよう、職員が介入しながら関わり合いが持てるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ転居される際、情報の共有を行っている。又、時折面会にも伺い関わりが持てるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントに基づき、入居者様と日々のコミュニケーションを深め、希望や意向を聞き出せるよう努力している。また、たんとうの職員が定期的に関われるカンファレンスにて意見の収集を行い計画書に繁栄をさせてサービスの向上に努めている	利用者のエンパワメントを高める観点から、日常的な支援の中で、利用者それぞれの生活状況、個性、意向等を把握している。意思表示が困難な場合には、ノンバーバルコミュニケーションを活用しながら、充分に関わりを持ち、表情やしぐさ等から意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントシートや、ご家族からの聞き取りによりこれまでの暮らしを把握し、自分らしく暮らしていけるよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできる力、理解力を暮らしの中で観察し、日々の業務の中で話し合いやトリガーシートなどで共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで全員のモニタリングを行い、ご家族の要望、ご本人の出来ることを重視したプランの見直しを行っている。又、他職種連携しアドバイスを受けケアに反映している	毎月、モニタリングを行い、利用者・家族の意向を踏まえ、医師、看護師、理学療法士等の専門職の意見も反映させて、全職員チームで介護計画を作成している。利用者の状況の変化等、必要な場合には、その都度、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付きなど、電子カルテへ毎日記入している。特記事項などはユニット日誌に記入することで職員間で周知し、介護計画の見直しに繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族の状況変化に応じ、必要と思われる支援が受けられる様、検討する場が設けられている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣施設・託児所との交流などを通じて楽しむことが出来ている。又、自治会の方々に見学をして頂き様子の把握をして頂くと共に、消防訓練の実施により安全に暮らせる様協力関係を築いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の往診がある。又、24時間連携体制がありご本人やご家族・職員の安心となっている。専門医への受診はかかりつけ医からの情報提供により連携に努めている	かかりつけ医の選択は自由であるが、法人クリニックをかかりつけ医としている利用者が多い。他科受診については、家族同行をお願いしているが、情報提供を行う等して連携を図っている。また、医療法人を母体とした法人グループのホームであるので、密な医療連携体制が確立しており、利用者・家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護があり、報告・相談をしている。隣接施設の看護師とも連携しており、迅速な対応ができています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入居中の様子をサマリーなどで医療機関へ情報提供し、安心して治療が受けられるよう支援している。又、法人内に「地域連携室」の設置があり、医療連携ができる体制が整っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期における対応について希望を十分に聞き取り、最善のケアが出来るよう努めている。対応すべき時期がきた場合にはご家族・医師・看護師・職員との話し合いの場を設け、支援体制を整える仕組みがある	契約時に終末期ケアのあり方について利用者・家族に説明し、話し合いを行っている。また、重度化した場合にもその都度説明し、意向を聞くとともに、十分な話し合いの機会を持っている。法人グループで複合的な施設展開を行っており、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設への入所やホームでの看取り等、様々な支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、医師への報告や救急車の要請時に迅速に対応できるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災等の災害時、昼夜を想定した避難訓練があるが、今年度は実施がコロナの関係できていない。しかし、避難場所として最短距離・最短時間で避難できる駐車場を設定している	今年度は、コロナ禍の影響で通常実施が困難な状況にあり、代替的にロールプレイを活用しているが、例年は、避難場所、避難経路、手順等を確認しつつ、夜間想定も含めた避難訓練を定期的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの意思やペースを尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや、排泄時等さりげなくフォローするよう心掛けている。車椅子等のトイレのドアが閉めれないときは、カーテンやパーテーションを用いて配慮している。	利用者の尊厳や価値感を大切にする観点から、本人の生活スタイルに合わせた支援に努めている。日常的なケアの場面では、プライドやプライバシーを損ねないよう、さりげない対応に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示困難な方でも自己決定できるよう、選択肢を提示したり表情を観察するなど、希望に沿えるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や思いに考慮し、それぞれのペースで過ごして頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の訪問があり、希望の髪型や毛染めをして頂く事が出来る。洋服をご自分で選べるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回、自由メニューの日を設け食べたい物を伺い、一緒に調理をしている。又、テーブル拭きやお盆ふき、食器洗いなどその方に出ることを手伝って頂いている	食事は月1回、自由メニューの日があり、利用者の楽しみになっている。準備・後片づけについては、利用者の能力や状況に合わせて役割を持ってもらい、職員とともに行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食事形態にて提供している。食事摂取量は全員、水分摂取量は必要に応じてチェックしている。嚥下状態を常に観察し、他職種と連携を図り見直し、変更を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。磨き残しのチェックなど支援している。法人内の歯科医師に相談出来ることで口腔内を良い状態に保ち肺炎予防に繋がっている。月に2回歯科衛生士が口腔内のチェックをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導をさせて頂きトイレでの排泄が維持できるよう支援している。必要に応じ随時話し合い対応している	布パンツは本人のプライドや自己効力感の回復にもかかわるので、できるだけ布パンツへの変更に取り組むとともに、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、回数の多い人でもポータブルを活用しつつ、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操など体を動かす機会を多くしている。ヨーグルトや繊維質の多い物を提供したり、トイレ時に腹部マッサージを行い排便を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	菖蒲湯やゆず湯で季節を感じて頂いたり、入浴日の振り分けをすることにより、更にゆったりとした入浴の提供を支援している。	ゆず湯・菖蒲湯や保湿効果のある入浴剤を活用する等して入浴が楽しみなものになるよう工夫している。また、入浴日を振り分けて、少人数入浴ができるよう工夫し、ゆったり入浴していただいている。入浴日や時間帯等も利用者の状況に合わせて柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方を工夫し夜間の良眠に繋げている。眠れない時は傾聴したり、飲み物を提供したり一緒に過ごし穏やかに眠りにつくことができるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・副作用・用法・用量について理解し、飲み込むまで必ず確認している。状態に変化があれば医師の指示を仰ぎ迅速な対応ができるよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や習慣を大切にし、その方らしい暮らしが出来るよう支援している。又、家事作業や花や野菜の水やりなど、役割を見つけ活躍できる環境を整えている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防の為外出は出来ていないが、専門医の受診など特定の場所に関してはご家族の協力を得て外出して頂いている	今年度も引き続き、コロナ禍の影響で、外出活動が困難な状況にあるが、中でも、敷地内での外出や車中ドライブによる紅葉見学等の外出等を試みている。例年は、近隣施設に訪問したり、喫茶店や近隣の商店等に出かけたり、外出ツアーを企画する等の外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や喫茶代などは引き落としとなっている。ご本人が希望される物はご家族に依頼し購入して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を掛けるなど取次をしている。親戚への手紙や、お届け物へのお礼の電話などご本人自ら出来るよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるぬり絵や壁飾りを一緒に作成したり、又、採光に配慮し明るく安心できる環境作りを心掛けている。毎日の室温管理により快適に過ごせるよう努めている	共有スペースは自然採光に優れて明るく、季節を感じられる利用者の作品が展示してあったり、観葉植物が飾られており、落ち着いた環境である。各所に温度、湿度計を配置して時間を決めて室温チェックを行う等、快適に過ごせるよう工夫をしている。また、廊下から外の景色や隣接の交流スペースの様子を眺めることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファで入居者様同士一緒に過ごしたり、テレビ前に設置した椅子に腰掛けたり、その日によって気に入った場所で過ごして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの生活用品、ご家族の写真などを持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている	居室には馴染みの家具や調度品を持参してもらったり、花瓶を置いたり、写真や作品を飾る等して、利用者それぞれの個性に合わせた居室づくりをして心地良く過ごせるよう工夫している。	利用者一人ひとりの生活スタイルに合わせた居室づくりに努めているが、更に、よりホームから自宅に近づける居室になるよう、生活感ある居室づくりを家族を巻き込んで、家族と共に、検討してみるのも一考である。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒のリスクが高い方には、居室内の家具の配置を変えたり、居室の分からない方には入り口に名札をつけるなど工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500769		
法人名	社会福祉法人 フェニックス		
事業所名	グループホーム サニーテラス 2階		
所在地	岐阜県各務原市鵜沼各務原町9-204-3		
自己評価作成日	令和4年1月1日	評価結果市町村受理日	令和4年8月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkgvsvCd=2170500769-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和4年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍により、外出が自粛されている中昨年の10月～11月にかけて少しだけの外出の許可が下りたため(車中のみ)紅葉を見るためにドライブを実施しました。本当に2年ぶりの外出のため皆さん車中のみでしたが、笑顔が絶えませんでした。お土産の団子も頂きながら、写真などを見返して、思い出話に浸りました。少しでも皆さんのお気持ちが外の天気のように晴れていただいたことが何よりでした。月一度だった自由目メニューも、数回に及び実施しました。コロナ禍により、嫌なこともありましたが、本来のグループホームの形に近づけた様な気がします。これからも先が見えない世の中ですが、マイナスの事ばかりを考えず、ピンチをチャンスに変えて付こうと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の実施を行い、毎朝の朝礼に呼称をしながら、新たな心意気を胸に仕事に入れるように申し送りなどの共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年同様にコロナ感染予防に向けての交流の自粛を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接している施設の秋祭りに参加し地域の方々と交流している。又、地域運営推進会議を利用し、地域の方々に認知症に対する理解を深めて頂き、ご利用者の生活状況などを伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防の為、今年度も運営推進会議を開催していない。書面上のみとなっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは運営推進会議を通じて、地域との関わりや入居者様の状況、リスクマネジメント、ヒヤリ・ハット報告等細かく報告し意見を頂いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度も、身体拘束の対象者はいないがカンファレンスで話し合い、人感センサーの設置、ベッド柵や歩行器に鈴をつける等個々に合った対応策をしている。また、転倒のリスクが高い利用者様には家族からの同意をもらいカメラの導入を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	尊厳について理解を深め、周知できるよう常にカンファレンスで知識を得て防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンス等で学ぶ機会を設けており、必要と思われる方には支援できる体制にある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに、ご本人やご家族の希望を伺いながら十分な説明を行い、理解して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に設置しているが、中に入れない為何かあれば口頭で面会時や、電話にて御意見、ご要望などを頂いている。そのことをカンファレンスで話し合い反映させている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の運営会議が毎月定期的に開催されていたが、現在は支援会議のみリモートにて行われている。代表者をはじめ各事業所の職員が出席し、意見・相談・提案をする場となっており、運営に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的上司と面談する機会が設けられており、個々の自己評価をもとに話し合っている。又、非常勤職員にも毎月評価シートがある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内キャリアアップ制度に基づき、研修会などに参加しスキルアップを図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの交流や、グループホーム協議会への加盟、研修会への参加により質の向上を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを収集し、それをもとに要望等に耳を傾け環境に馴染み、安心できる空間とお互いの信頼関係を築くことが出来るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の情報をもとに、ご家族の思いや不安に思っている事などを伺い、安心して頂ける支援が出来るよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集した内容から必要とされる支援を見極めている。又、他職種との連携も図っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活における家事作業などを一緒に行い、その方の役割ややりがいに繋げていけるよう、共に過ごす時間を多く持つようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて報告・相談をし、入居者様とご家族との関係を支えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会や遠方の親戚への電話・手紙など、積極的に受け入れている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士楽しく過ごして頂けるよう、職員が介入しながら関わり合いが持てるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ転居される際、情報の共有を行っている。又、時折面会にも伺い関わりが持てるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントに基づき、入居者様と日々のコミュニケーションを深め、希望や意向を聞き出せるよう努力している。また、たんとうの職員が定期的に関われるカンファレンスにて意見の収集を行い計画書に繁栄をさせてサービスの向上に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントシートや、ご家族からの聞き取りによりこれまでの暮らしを把握し、自分らしく暮らしていけるよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできる力、理解力を暮らしの中で観察し、日々の業務の中で話し合いやトリガーシートなどで共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで全員のモニタリングを行い、ご家族の要望、ご本人の出来ることを重視したプランの見直しを行っている。又、他職種連携しアドバイスを受けケアに反映している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付きなど、電子カルテへ毎日記入している。特記事項などはユニット日誌に記入することで職員間で周知し、介護計画の見直しに繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族の状況変化に応じ、必要と思われる支援が受けられる様、検討する場が設けられている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣施設・託児所との交流などを通じて楽しむことが出来ている。又、自治会の方々に見学をして頂き様子の把握をして頂くと共に、消防訓練の実施により安全に暮らせる様協力関係を築いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の往診がある。又、24時間連携体制がありご本人やご家族・職員の安心となっている。専門医への受診はかかりつけ医からの情報提供により連携に努めている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護があり、報告・相談をしている。隣接施設の看護師とも連携しており、迅速な対応ができています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入居中の様子をサマリーなどで医療機関へ情報提供し、安心して治療が受けられるよう支援している。又、法人内に「地域連携室」の設置があり、医療連携ができる体制が整っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期における対応について希望を十分に聞き取り、最善のケアが出来よう努めている。対応すべき時期がきた場合にはご家族・医師・看護師・職員との話し合いの場を設け、支援体制を整える仕組みがある		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、医師への報告や救急車の要請時に迅速に対応できるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災等の災害時、昼夜を想定した避難訓練があるが、今年度は実施がコロナの関係できていない。しかし、避難場所として最短距離・最短時間で避難できる駐車場を設定している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの意思やペースを尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや、排泄時等さりげなくフォローするよう心掛けている。車椅子等のトイレのドアが閉めれないときは、カーテンやパーテーションを用いて配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示困難な方でも自己決定できるよう、選択肢を提示したり表情を観察するなど、希望に沿えるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や思いに考慮し、それぞれのペースで過ごして頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選べる方には洋服を選んで頂いている。早朝に起床し、お化粧をする方もいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回、自由メニューの日を設け食べたい物を伺い、一緒に調理をしている。又、テーブル拭きやお盆ふき、食器洗いなどその方に出来ることを手伝って頂いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食事形態にて提供している。食事摂取量は全員、水分摂取量は必要に応じてチェックしている。嚥下状態を常に観察し、他職種と連携を図り見直し、変更を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。磨き残しのチェックなど支援している。法人内の歯科医師に相談出来ることで口腔内を良い状態に保ち肺炎予防に繋がっている。月に2回歯科衛生士が口腔内のチェックをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導をさせて頂きトイレでの排泄が維持できるよう支援している。必要に応じ随時話し合い対応している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操など体を動かす機会を多くしている。ヨーグルトや繊維質の多い物を提供したり、トイレ時に腹部マッサージを行い排便を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	菖蒲湯やゆず湯で季節を感じて頂いたり、入浴日の振り分けをすることにより、更にゆったりとした入浴の提供を支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方を工夫し夜間の良眠に繋げている。眠れない時は傾聴したり、飲み物を提供したり一緒に過ごし穏やかに眠りにつくことができるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・副作用・用法・用量について理解し、飲み込むまで必ず確認している。状態に変化があれば医師の指示を仰ぎ迅速な対応ができるよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や習慣を大切に、その方らしい暮らしが出来るよう支援している。又、家事作業など、役割を見つけ活躍できる環境を整えている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ感染予防の為外出は出来ていないが、専門医の受診など特定の場所に関してはご家族の協力を得て外出して頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や喫茶代などは引き落としとなっている。ご本人が希望される物はご家族に依頼し購入して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を掛けるなど取次をしている。孫からの手紙などの受け渡しも行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるぬり絵や壁飾りを一緒に作成したり、又、採光に配慮し明るく安心できる環境作りを心掛けている。毎日の室温管理により快適に過ごせるよう努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファで入居者様同士一緒にテレビを観たり、廊下から1階の交流広場で遊ぶ託児所や学童の子達を見て他者とお喋りをしたり、その日によって気に入った場所で過ごして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの生活用品、ご家族の写真などを持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒のリスクが高い方には、居室内の家具の配置を変えたり、居室の分からない方には入り口に名札をつけるなど工夫している		